

特定外来生物クビアカツヤカミキリに対する防除資材の適用拡大

技術の特徴

サクラ等バラ科樹木を加害する特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害が広がっています。しかし、防除に用いる農薬は指定された害虫種にしか用いられないため、外来種である本種には施用可能な資材が不足していました。そこで、森林総研交付金プロジェクトで、既存の農薬が本種に効果があるのかを試験しました。その成果を用いて、幼虫対象の化学農薬 1 剤、成虫対象の生物農薬 1 剤が適用拡大登録に至り、施用が可能になりました。

連携の方向

今回適用拡大された 2 農薬を用いて、樹幹内のクビアカツヤカミキリ幼虫、および羽化脱出した成虫に対し、県および市町村の担当者、地域の NPO 等と連携して本種の防除活動を加速します。

担当者

森林昆虫研究領域・加賀谷悦子

技術の詳細

・論文・総説等 農業および園芸, 93, 850-852 (2018)



図1 森林総研交付金プロジェクト成果により適用拡大した防除資材「バイオリサカミキリ（微生物農薬）」の施用例

微生物農薬に感染して死亡したクビアカツヤカミキリ成虫。

薬剤使用の制約に対応する松くい虫対策技術の刷新

技術の特徴

薬剤使用への制約が強まる中でマツ林の維持を図るための総合的な松くい虫対策技術のあり方を提案しました。

個別技術として、環境低負荷な伐倒駆除技術の普及促進、被害材燃料利用に関するモデルの提示、マツ林の伐採・利用促進に向けたアカマツ CLT 製造技術の確立、激害地や未侵入地等の状況に応じた抵抗性マツの選抜、増殖手法ならびに抵抗性マツ造林のための品種選択ツールの開発を達成しました。

連携の方向

本研究の成果は、既往の松くい虫対策技術を状況に応じて最適化するためのオプションとなるとともに、マツ林の伐採利用も促進するものです。燃料利用は木質バイオマス発電の燃料供給に、アカマツ CLT はそのまま製品として木材産業に資するものとなります。

担当者

東北支所・中村克典

技術の詳細

・マニュアル等 単行本「森林保護と林業のビジネス化：マツ枯れがつなぐ地域の林業再生」2019年春刊行予定
・論文・総説等 森林技術, 914, 32-33 (2018)、フォレスウィングス, 2018-2, 1-2 (2018)



図1 松くい虫対策のための新たなオプション

これまでの防除手法を含め、使える技術を総動員することで地域の実情に合わせた松くい虫対策技術の最適化を図っていくことが必要です。